

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒 650-0003 神戸市中央区山本通 4-22-25 兵庫人権会館 2 階
TEL : 078-252-8280 FAX : 078-252-8281
e-mail : blrhyg@extra.ocn.ne.jp URL : http://blrhyg.org/

つとむくんの「今、衆議院選挙？」



つぶやき

2026年1月23日、通常国会冒頭において、高市総理が衆議院を解散した。自民党が維新と連立を組み、内閣が昨年10月に発足したところである。しかも、前回の衆議院選挙は2024年10月であり1年3ヶ月という短い期間での解散である。また、2026年度の予算が立てられこの通常国会に提案され論議される予定であった。解散により、新年度予算は審議されず成立は大きく遅れることになる。という事は、国だけでなく各地方自治体も暫定予算で新年度が動き出すことになる。高市総理の信任と自民・維新の連立評価を問うという事での解散総選挙と言われているが、経済対策などの新年度予算の提案も論議もすることなく評価を問うというのは、私には理解できない。

政治とは、国会とは、日本の国の在り方や人々の生活を守るために何をするかを論議し決定していくところでありその内容の是非を争点とするならばまだ理解ができる。今回の解散総選挙は、いったい誰のための何を目的とした選挙なのか、解散を宣言した高市総理に問いたい。選挙には855億円の費用が掛かると言われている。今物価高騰により多くの人々が日常生活に困っている。855億円があればその支援が少しでもできるのではないか。そう思うのは私だけだろうか。なんとなく、「国会議員は生活に困ることもなく生活ができていますので別にかまわない」から「人々の生活より、自らの議員としての立場を守る」ことが優先されているように思えてならない。そして、総理、国会議員はそんなに自らが言ってきたことを簡単に変えていいのだろうかと思う。「変えていい」というのであれば、選挙で訴えていることもいつでも変えられることになる。では、何を投票の判断材料とすればいいのだろうか。言っていることが、いつでも変えることのできる議員？そんな政治家をだれが望んでいるのか。本当に、議員自ら問うてほしい。

今回の解散の理由が通るならば、新たに連立を組む、そして総理大臣が選ばれるたびにその評価を選挙で問わなければならないことになる。今まで、新たに連立を組むあるいは新たな総理が選出されるたび解散しその評価を問うてきたのだろうか。なんとなく、都合のいい理由として挙げられているだけで、「衆議院解散・選挙」の結論ありきのための屁理屈としか思えない。

私は、小さな兼業農家である。お米も作っている。すでに今年の準備が始まっている。しかし、

今号のもくじ

- ▶1面…つとむくんのつぶやき「今、衆議院選挙？」
- ▶2面…第4回人権セミナーのご案内ほか
- ▶3面…本の紹介『学校で性暴力がおこったら チームで立ち向かう緊急対応・再発防止』
- ▶4面…イベント案内「神戸にかつてあった、本屋のはなし」／人権教育ひょうご春季学習会／事務局から plus

全く先が見えない米価、このような不安を持っているのは私だけだろうか。一日も早く国の方針を様々な課題に対して出さないといけない時期だと思う。でないと本当に先を見通せないままの日々を人々に強いることになる。この様な時に、解散総選挙をすることが本当に理解できない。

(一社)ひょうご部落解放・人権研究所
事務局長 細田 勉

▶ 2025年度第4回人権セミナー ※申込締切：2月12日(木)

「その“あたりまえ”は誰のもの？」

—社会のあり方から考える差別と人権—



講師：栗本敦子さん (Facilitator's LABO <えふらぼ>)

社会でおかれた立場や、生まれ育った環境による経験などによって、ものの見え方、感じ方は違います。講演・ワークショップを通して、日常生活の中に潜む「あたりまえ」を問い直し、人権について学びを深め、一緒に考えていきます。

○日時：2026年2月14日(土) 13:30～15:30

○場所：兵庫県立のじぎく会館 101・102号室
神戸市中央区山本通 4-22-15

○定員：60人 ※オンライン配信はありません。

○参加資料代：①一般 1,000円
②学生・障害者・賛助会員 500円
③正会員・特別会員(クーポン利用の方) 無料

○申込方法：右上のQRコードからお申し込みください。

○お問合せ：(一社)ひょうご部落解放・人権研究所
TEL：078-252-8280 Mail：blrhyg@extra.ocn.ne.jp



これからの社会を
生きていくための人権
リテラシー
(栗本敦子・伏見裕子著 / 1,400円 + 税 / 北樹出版)

〈2026年度〉第60回定時社員総会のお知らせ

【正会員の皆様】

一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所第60回定時社員総会は2026年6月に開催いたします。詳しい日程が決まり次第、HP等お知らせいたします。

〈2026年度〉人権啓発研究第46回兵庫県集会のお知らせ

人権啓発研究第46回兵庫県集会の開催日が決定しました。今回も充実した内容で開催いたします。集会の詳細は、決まり次第HPやHB通信などでお知らせいたします。

開催日：2026年10月24日(土)

会場：兵庫県立のじぎく会館

〈2026年度〉ひょうご人権総合講座、人権教育実践講座

開催時期は以下のとおり予定しております。

ひょうご人権総合講座：2026年8月～12月の木曜日に実施(全13日26講座)

人権教育実践講座：2026年8月、2026年11月(フィールドワーク)



『学校で性暴力がおこったら チームで立ち向かう緊急対応・再発防止』

田口奈緒編著、合同出版、2025年12月、2,000円(税別)

本書の元になっているのは、2020年に発行された『学校で性暴力がおこったら 被害・加害児童生徒が同じ学校に在籍している場合の危機対応手引き』（以下「手引き」※）。この「手引き」は、編著者の田口奈緒（兵庫県立尼崎総合医療センター産婦人科部長）が理事を務めるNPO法人 性暴力被害者支援センター・ひょうごのホットラインに寄せられた学校の先生からの切迫した相談がきっかけになった。「被害者も、加害者も、うちの大切な生徒。どうしたらいいのでしょうか」——。実践的な内容を盛り込んだこの「手引き」は、「地元・兵庫の教育委員会や学会での発表、SNSによる拡散を経て全国規模で大ブレイク」し、いくつかの県でご当地版が作成されたり、執筆者が各地の研修に呼ばれたり、内閣府からヒアリングを受け「生命の安全教育」プログラムに一部知見が参考にされたりなど、大きな反響があったという。

本書は、「手引き」での「学校内で起こった性暴力への対応」に加え、「学校外で起こった性暴力について打ち明けられた場合」についても取り上げられている。

「第Ⅰ部 学校でできる性暴力対応」「第Ⅱ部 チームで取り組む支援の実際」に分かれ、それぞれ、医療・教育・司法・心理・被害者支援の専門家が執筆。

第Ⅰ部は「性暴力対応のタイムライン」「性暴力への初動対応」「被害児童生徒への支援」「性問題行動を起こす児童生徒への支援」「学校で起きた性暴力 こんなときどうする?」「学校外で性暴力が起こったとき」「SNSでの性暴力」で、具体的な対応の仕方や必要な知識が示されている。第Ⅱ部は「外部機関との連携」「ケースでわかる性暴力対応」「性暴力が起きないために学校でできること」。10の架空事例も紹介され、リスクマップを使用したシュミレーショントレーニングの題材としても活用できる。巻末には「少年事件の手続き・性暴力にまつわる法制度」や相談先、おすすめの本・サイトも掲載され、必要な情報や知識を得ることができる。

冒頭には、「性暴力」の定義が次のように書かれている。「性暴力とは、性を手段にした暴力のことであり、「本人の意に反した性的な言動」「被害者が「嫌だ」と言ったときだけではなく、「嫌だけれども断れない」「逃げられない」「応じざるを得ない」といった状況も指します」。性暴力は様々なパワーバランスの差の中で起こるもので、残念ながら特別なことではなく、日常生活の中で思っている以上に起きていると認識しておいたほうがいいと思う。

性暴力が起こったときは、何より初動対応が大事だと言われる。初動で適切な対応がおこなわれるかどうかで、被害者のその後の回復に大きな影響があるという。とりわけ子どもの被害は、周りのおとながどれだけ知識を持ち、そのSOSをキャッチし、適切に対応できるかが重要だ。

編著者の田口は「はじめに」で、「執筆者としての願いは、年に1回でよいので危機管理のトレーニングとして本書を活用し、学校全体でシュミレーショントレーニングを行っていただくこと」「めったに起こらない火災に対して毎年避難訓練をするならば、もっと高い頻度で起こる性暴力事案に対して時間を割くのは、子どもたちを守る上で合理的です」と書いている。各学校に1冊、いや、子どもにかかわるおとなたちには、ぜひ手元に置いて活用していただきたい。(H)

※「手引き」は以下のサイト（または右のQRコード）からダウンロードすることができます。

<https://onestop-hyogo.com/atschool/>



イベント案内 神戸にかつてあった、本屋のはなし

機関誌『ひょうご部落解放』でお馴染みの平野義昌さんのイベントが開催されることになりましたので、ご案内いたします。

平野さんには192号(2025年秋号)まで29回にわたり「おじさん読書ノート」を連載していただき、面白い本をたくさん紹介していただきました。

平野さんいわく「海文堂ジイサズがボケボケウダウダ語ります」とのこと。神戸の文化、ことに本屋についてご興味のある方はぜひともご参加ください。

柳原一徳さんによるひとり出版社、みずのわ出版から神戸の記憶を詰め込んだ『神戸元町ジャーナル 通り過ぎた人々 喪われた街』が刊行されて、半年が経ちます。海の本屋や高架下の本屋など、『神戸元町ジャーナル』著者の平野義昌さんと、元海文堂書店店長の福岡宏泰さんが、神戸にかつてあった本屋の話をしていきます(聞き手、ジュンク堂書店三宮店 店長)。

※ honto(https://honto.jp/store/news/detail_041000125104.html?shgcd=HB300)より

○語り手：平野義昌(海文堂書店・三宮ブックス・コーベブックス元店員)
福岡宏泰(海文堂書店元店長)

○日時：2026年2月11日(水・祝) 15:00～16:30

○会場：ジュンク堂書店三宮店 5階 ※席数に限りがあるため、立ち見になる可能性もございます。

○参加：無料(電話予約制) ご了承ください。

○お問合せ：ジュンク堂書店三宮店(TEL:078-392-1001)

▶人権教育ひょうご 春季学習会のお知らせ

『共同親権制度のポイントと留意点』

■ 講師：曾我智史さん(弁護士・社会福祉士)

■ 日時：2026年2月15日(日) 14:00～17:00 受付13:30～

■ 会場：ラッセホール5階サンフラワー

神戸市中央区中山手通4-10-8

■ お問合せ：(一社)ひょうご部落解放・人権研究所 TEL:078-252-8280

■ 主催：じんけん教育ひょうご(「人権教育のための国連10年」兵庫県推進連絡会)

(事務局団体)自治労兵庫県本部/部落解放同盟兵庫県連合会/ひょうご部落解放・人権研究所/
兵庫高等学校教職員組合(兵高教)/兵庫県教職員組合

事務局から plus

- 寒い季節が来ると中学陸上部キャプテンのK君を思い出す。彼は駅伝で区間賞3位と発表された後、計算誤りを申し出て4位に転落。この清々しい信念を衆院選でも期待したい。嘘やデマや誹謗中傷はもうこりごりだ。(N)
- 雪です。今年は、丹波でも雪がよく降り積もっています。ここ何年か見ない風景を見ています。ほとんど毎日車で神戸に来ている私にとっては「真っ白な雪景色、きれいだなあ」なんて言われていられません。「雪よ、降らないで、積もらないで」と祈る毎日です。(Ho)
- 辞めてほしい指導者たち、トランプ大統領、習近

- 平国家主席、金正恩総書記、プーチン大統領、ハメネイ師、ネタニヤフ首相、日本の国や地方の何人か。皆さん来年の今頃も現職でしょうか……、嫌だな(ka)
- 最近参政党の差別街宣について若い人と話す機会があり、それなりに会話できた気がする。衆院選では昨夏の参院選以上にヘイトがばらまかれるだろう(参政党だけでなく)。反差別の声をしっかりあげていきたい(H)
- 姫路名物『御座候』が運営するあずきミュージアムに行きました。食物繊維やポリフェノール、鉄分やビタミンB群が豊富な上、小豆の赤色は魔除けにもなるそう。良いこと尽くしの小豆を食べて、からだを健やかに保ちたいです。(ひ)

